

日本語・ベトナム語の「引き継ぎ」現象における 末尾音延長と反復

NGUYEN THI HA*・有元 光彦**

Final-segment Lengthening and Repetition in the 'Hikitsugi' Phenomenon
of Japanese and Vietnamese

NGUYEN THI HA*, ARIMOTO Mitsuhiko**

(Received September 26, 2025)

本研究は、日本語とベトナム語の自然会話における「引き継ぎ」現象を対象とし、そこに現れる末尾音延長と反復の出現位置や共起要素を検討する。その結果、末尾音延長や反復のような言語現象もポーズのような挿入要素と同様に生起し、対称性を示すことが分かった。さらに、その対称構造の中で、末尾音延長は「感₁」の位置に、反復は「感₁」「感₂」の位置にそれぞれ生起する可能性が高いことも判明した。会話データが少なく、問題も多々残るが、具体的な形式だけでなく、言語現象も話者交替時に生起することを捉えた点で、本稿の意義は大きいと考える。

1. はじめに

本研究が対象とする「引き継ぎ」とは、「ある話者（話し手）が発話を途中で中断し、それ以上の発話を続けずに話者交替が起こった後、別の話者（聞き手）がその発話を引き取って継続するという言語現象。1人以上の話者（聞き手）の発話が繋がることによって、統語的に「命題+モダリティ」という一文になる」現象である（NGUYEN THI HA 2025: 64）。

引き継ぎが成立するためには、話者交替の位置（話者交替場所）において両者の発話が統語的に接続される必要があるが、この過程には、様々な要素が関与している。とりわけ、話者交替場所に現れる「挿入要素」（感動詞類、ポーズなど）が引き継ぎを促進していることが指摘されてきた（NGUYEN THI HA 2025）。

しかし、「引き継ぎ」現象においては、何らかの要素が挿入されるだけでなく、末尾音延長や反復といった言語現象も観察される。以下にその会話データを示す（(1)、(2)における記号の説明は3節を参照されたい）。

(1) 日本語の場合：

A：と考えると、まー、めっちゃかっこいいプラン
は-a (0.6)

B：〇〇研究室。だって優秀な人いっぱいいるからね。

A：〇〇研究室。

(2) ベトナム語の場合：

C：45 điểm là là-a
45点 はは-a

D：không không cao
ない ない 高い（45点は高くなかった。）

(1) では、話者Aが発話の末尾で「は」の母音[a]を引き延ばし、さらに0.6秒のポーズが挿入された直後に話者交替が起こっている。その後、話者Bが「〇〇研究室」と続け、両発話を組み合わせることで「めっちゃかっこいいプランは〇〇研究室」という一文が形成される。

(2) では、話者Cが「là」を繰り返す、さらにその母音[a]を引き延ばした直後に話者交替が起こっている。そして、話者Dが「không không cao」と続けることで、「45 điểm là không cao（45点は高くない）」という一文が成立している。

これらの末尾音延長や反復は、一見すると発話の「流暢性」を妨げるように見える¹⁾。しかし実際には、話者交替がスムーズに起こり、発話は継続している。「非流

* ベトナム・東アジア工科大学日本語学部、山口大学大学院東アジア研究科東アジアラボ研究推進体特別研究員

** 山口大学国際総合科学部 〒753-0841 山口市吉田1677-1 arimoto@yamaguchi-u.ac.jp

暢性」を表すものとして、ポーズや感動詞類の挿入要素が関わることは従来議論されているが、末尾音延長や反復のような言語現象も同様のものと捉えられるのであろうか。

本稿では、日本語・ベトナム語の「引き継ぎ」現象の際に起こる末尾音延長と反復について記述するとともに、ポーズや感動詞類といった挿入要素との関係について理論的な考察を行うことを目的とする。

2. 先行研究

自然会話における話者交替は、言語研究の中でも中心的な課題であり、その仕組みや成立条件をめぐる多くの議論がなされてきた。とりわけ会話分析の枠組みでは、話者交替の仕組みに注目されてきた。Sacks, Schegloff & Jefferson (1974) は、話者交替が「話者交替の組織 (turn-taking system)」によって統制され、発話が交替可能となる位置を「話者交替適切場所 (Transition Relevance Place, TRP)」と定義している。TRPに関する研究は、その後の会話分析の基盤を形成し、話者交替の組織を記述・分析するうえで不可欠な理論的枠組みを提供している。

この理論的基盤を踏まえ、NGUYEN THI HA (2025) は、日本語とベトナム語の自然会話における「引き継ぎ」現象を詳細に分析している。この研究では、話者交替場所に現れる挿入要素が「引き継ぎ」の生起を促進する要因となり、その生起順序が話者交替場所を中心に「対称性」を示すことが明らかにされている。この対称性は、話者交替のプロセスそのものが対称的構造を生成する可能性を示すものであり、日本語とベトナム語に共通する言語普遍的な仕組みとして機能する可能性が論じられている。しかし一方で、末尾音延長や反復など、しばしば観察される言語現象が、「引き継ぎ」現象の生起にどのように関与しているのかについては、十分に解明されていない。

自発発話に見られる繰り返しや音の延長、フィラーについては、その性質や機能が先行研究において指摘されてきた。例えば、伝・渡辺 (2009) は、それらが発話計画の調整、発話権の保持、聞き手の注意喚起などに寄与することが明らかにしている。さらに、繰り返しや音の延長が持つ「非流暢性」が聞き手にとって後続発話の中断や複雑性、新旧情報を予測する手がかりとなることも指摘されている。

また、常 (2022) は日本語自然会話における「話者間反復」を対象に、従来の自発的反復研究とは異なる視点を提示している。先行発話のどの要素が反復されるのかを、形態的・統語的・談話的観点から複合的に分析し、最適性理論を枠組みとし、反復要素の選択に関わる

制約とその相互作用を明らかにしている。その結果、定性の高さ、文末への指向性、話題性といった要因が「話者間反復」の成立に関与することが示されている。しかし、複数の話者が一つの文を共同的に構成する「引き継ぎ」の場面では、これらの現象がどのように関与しているのかについては、対象とされていない。

以上、先行研究では、繰り返しや末尾音延長の性質や機能が指摘されてきたが、どのような要素や言語現象が関連しているのかについて、まだ網羅的な記述はできていない。特に、関連する言語現象については明らかになっていない。本稿では、日本語とベトナム語の比較を通じて、「引き継ぎ」の際に起こる言語現象に焦点を置く。

3. 研究方法

本研究の分析対象は、日本語およびベトナム語の自然会話データである。日本語データは2018年から2023年にかけて収集された28ペア (約840分) で、話者は大学生を中心とする日本語母語話者32名である。ベトナム語データは2022年から2023年にかけて収集された48ペア (約1440分) で、話者はベトナム語母語話者61名である。

収録場面は両言語とも、①初対面別世代、②初対面同世代、③友人同士、という3種類のペアを設け、25~30分程度の自由会話を静かな室内で録音した。

収録にはスマートフォンの録音機能を用いた。自然な会話を確保するために、調査者 (筆者) は同席していない。録音データは、文字化したものを、インフォーマントに確認してもらっている。

会話データの表記には、以下の記号を用いる。

- ___ : 「引き継ぎ」が起こっている発話を示す。
- | : 話者交替場所を示す。
- : 話者交替場所に現れる分析の対象を示す。
- [] : 発話の重なる部分を示す。
- { } : 相槌・笑いなど、特別な意味を持たない反応を示す。
- : 固有名詞の省略を示す。
- : 発話単位終了を示す。(発話単位については Sacks, Schegloff & Jefferson (1974) を参照。)
- 、 : ごく短いポーズを示す。
- ↑/↓ : イントネーションの上昇/下降を示す。
- ... : 何らかの発話を示す。
- (数字) : ポーズを表す (WavePadにより測定)。数字は秒数である。
- (hh) : 笑い示す。
- : 直前音の延長 (数が多いほど長いことを示す。ただし、分析対象となる末尾音延長については「は-a」や「là-a」のように表記し、これは「は」

と「la」の母音[a]が引き延ばされていることを意味する。

4. 会話データの分析

本節では、末尾音延長や反復といった言語現象が話者交替場所にどのように現れ、それが次の話者による発話にいかに関係するかを明らかにする。

4.1. 日本語の引き継ぎにおける生起

まず、日本語の会話データを取り上げ、話者交替場所における現れ方を観察する。本節では、これらの会話データを整理しながら、それぞれが引き継ぎを成立させる上でどのような役割を果たしているのかを考察する。

4.1.1. 日本語における末尾音延長

日本語データでは、話者交替前に末尾音延長や反復が単独で現れる場合、あるいはポーズなどの要素と共に起る場合、複数のパターンが確認された。

[1] 話者交替場所に末尾音延長のみが現れる場合

まず、話者交替場所には、ポーズ、末尾音延長、反復など多様な挿入要素や言語現象が観察される。その中でも、話者交替前に末尾音延長のみが現れる場合とは、語末の母音や音が引き延ばされ、その直後に話者交替が起こる場面を指す。以下に、その会話データを示す。

- (3) 13273OF04 : [でも] もう今からそういう時代-i
 13274YF10 : やっっていけない [ですネ]。
 13275OF04 : [やっっていけ] ない。...

(3) では、話者OF04が「時代」の末尾母音[i]を延長した直後に話者交替が起こり、話者YF10が「やっっていけないですネ」と発話を継続している。両者の発話を結合すると、「もう今からそういう時代やっっていけないですネ」という一文が成立している。

NGUYEN THI HA (2005) では、このような場合、話者交替場所に挿入要素が生起せずに「引き継ぎ」が起こった会話データとして扱っている。しかし本稿では、当該話者交替場所に末尾音延長が現れる点に注目し、これが「引き継ぎ」の挿入要素と同様の機能を果たしている可能性があると考え。これについては、次節で詳しく検討する。

このように、末尾音延長のみが現れる場合には、語末の音の引き延ばしが話者交替前に生起し、その直後に次の話者が発話を引き継いでいる。

[2] 話者交替場所に末尾音延長が一つの挿入要素と共に起る場合

次に、末尾音延長が単独で現れるのではなく、直後にポーズを伴って現れる会話データを観察する。まず、(4) を見てみよう。

- (4) 20090YM05 : 確かに確かに、○○ (地方名) は本当にね、うん。
 20091YM04 : 車がないと-o (0.3)
 20092YM05 : 何もできない。
 20093YM04 : ほんとに。そう。

(4) では、話者YM04が「車がないと」の母音[o]を延長した直後に0.3秒のポーズが挿入され、その後に話者交替が起こっている。ここでは、YM05が「何もできない」と続けることで、「車がないと何もできない」という一つの複文が形成されている。すなわち、これは末尾音延長とポーズが話者交替前に現れた上で、話者交替が起こり、「引き継ぎ」が生起している会話データである。さらに、末尾音延長が笑いと共起して現れる会話データ(5) を分析する。

- (5) 05144YF02 : (hh) えと、1年生の時、起きられたんだけど、1コマ目。なんか一、2年生になって全然。(hh)
 05142YF02 : 月曜日の1コマとかちよっと-o(hh)
 05143YF04 : やばいね。[きついね]。(hh)
 05144YF02 : [やめとこう]って思って。(hh)

(5) では、話者YF02が「ちよっと」の母音[o]を延長した直後に笑い(hh)が挿入され、その直後に話者交替が起こっている。ここでは、話者YF04が「やばいね」と発話を継続しており、前話者との発話がつながることで、「月曜日の1コマとかちよっとやばいね」という一文が形成されている。この会話データでは、末尾音延長と笑いが話者交替前に現れ、その直後に「引き継ぎ」が起こっている。

次に、末尾音延長が感動詞類と共に起る会話データ(6) が挙げられる。

- (6) 10012YF08 : 私、あれですよ、なんか、太鼓↑、フリカのジャンベ-e
 10013OF03 : あー行きました。行きました。

ここでは、話者YF08が「ジャンベ」の母音[e]を延長した直後に話者交替が起こっている。その後、10013OF03の発話冒頭に感動詞類「あー」が挿入されて

おり、両者の発話を結合すると「アフリカのジャンベ行きました」という一文が形成されている。この場合、末尾音延長は話者交替前に現れて発話を未完のまま保持し、感動詞類は話者交替後に共起して発話を開始している点が注目される。

このように、末尾音延長はポーズや笑い、さらには感動詞類など多様な挿入要素と共起しながら発話を未完のまま保持し、末尾音延長や挿入要素を契機として聞き手が発話を引き継いでいる。

[3] 話者交替場所に末尾音延長が複数の挿入要素と共起する場合

これまでに見た会話データでは、末尾音延長が単独で現れる場合、あるいはポーズや笑い、感動詞類など一つの挿入要素と共起する場合を確認した。しかし、日本語の引き継ぎには、末尾音延長が複数の挿入要素と同時に共起するケースも観察される。以下に、その会話データを示す。

(7) 18390YM01：どうなるんだろうね。

○○君とかどこ行きたいの↑

18391YM03：うーん、分かんない。ねえちょっと、
なんだろう、もう情報-o (1.0)

なんだろう

18392YM01：興味ない。

18393YM03：うーん、情報にももうあんまり興味なさそうな感じ。

(7) では、18391YM03発話において「情報」の末尾音[o]が延長され、その後1.0秒のポーズと感動詞類「なんだろう」が挿入されている。その直後に話者交替が起こり、YM01が「興味ない」と発話を引き継ぐことで、全体として「もう情報(に)興味がない」という文が形成されている(二格を表す助詞「に」が省略される)。

次に示す(8)は、末尾音延長に加えて複数の要素が話者交替前後に現れる会話データである。

(8) 09002YF07：なにしよう↑昨日、昨日帰ってきてから
{うん} なにしたかとか。

09003YF05：昨日↑ (2.0) 昨日は-a (1.0)

09004YF07：えっずっとこっちおった↑

09005YF05：いや、ずっと萩におった。

(8) では、09003YF05の発話において「昨日は」の末尾音[a]が延長され、その直後に1.0秒のポーズが挿入されている。その次に、話者交替が起こり、09004YF07の発話が引き継がれることによって、「今日はずっとこっ

ちおった↑」で、一文となっている²⁾。

以上のように、日本語の会話データにおける引き継ぎ場面では、末尾音延長が単独で現れる場合に加え、ポーズ・笑い・感動詞類など一つの要素と共起する場合、さらには複数の要素と共起する場合が観察された。これらの会話データでも、末尾音延長は発話を未完のまま保持することで、次の話者が発話を引き継いでいる。

4.1.2. 日本語における反復

本節では、日本語の引き継ぎにおいて反復がどのように現れるかを検討する。

[1] 話者交替場所に反復が単独で現れる場合

まず、話者交替場所において、反復が単独で現れる会話データを分析する。(9)が挙げられる。

(9) 09730YF07：使わないからとか言ったら、

勉強する、気が

09731YF05：気が失せる。[(hh)]。

(9) では、話者YF07が「勉強する、気が」と発話した直後、YF05が「気が」を反復して引き継ぎ、「気が失せる」と続けている。両発話が組み合わさることで、「勉強する気が失せる」という一文が形成されている。ここでは、話者交替前の語句が、話者交替後に再度反復されることによって、引き継ぎが生起していることが観察される。

なお、NGUYEN THI HA (2025) では、このような反復を「引き継ぎ」の主要な類型には含めていない。しかし、この会話データによって、形式として生起する挿入要素だけではなく、反復という言語現象も「引き継ぎ」に生起することが分かる。

[2] 話者交替場所に反復が一つの要素と共起する場合

次に、話者交替場所に反復がポーズと共起する会話データを示す。

(10) 28026YM14：うん、防災運動会の案が

28027YM13：うんうんうんうん。誰が対象だった。

28028YM14：は、えっとねー、地域の人、地域の人で (0.5)

28029YM13：みんな↑

28030YM14：みんなだった。

(10) では、YM14が「地域の人、地域の人で」と発話した後にポーズを挿入し、その直後に話者交替が起こっている。これに続くYM13は「みんな↑」と発話し

て引き継ぎ、結果として「地域の人、地域の人でみんな↑」という一文が形成されている。ここで注目されるのは、「地域の人」が2回現れているが、2回目は「地域の人で」となっているため、厳密には全く同じ要素の反復にはなっていない。しかし、日本語の「名詞+格助詞」という構造では格助詞が省略される場合も多いことから、このような部分的な繰り返しも反復現象と捉えることにする。

次の(11)は、話者交替後に反復が現れ、引き継ぎが起こっている会話データである。

- (11) 23357YM07 : 韓国行かれたこと(0.2)
 23358YM08 : ないないない。
 23359YM07 : いや、もう、ぜひぜひ、ぜひぜひ行ってください。

(11) では、23357YM07の「こと」の後に、ポーズが挿入され、その直後に話者交替が起こっている。これに続くYM08は「ないないない」と同じ語を3回繰り返して続け、その結果、「韓国行かれたことない」という一文が形成されている。ここでは、話者交替後に反復が現れることで引き継ぎが生起している。

[3] 話者交替場所に反復が複数の要素と共起する場合

ここでは、話者交替場所において、反復が感動詞やポーズなどと共起する会話データを分析する。(12)が挙げられる。

- (12) 27036YM13 : そうですね。じゃあ経済で今二年生からラボ配属みたいな。
 27037YM12 : あーゼミ、ゼミはいはい (0.3)
 27038YM13 : あるんですよ。
 27039YM12 : そうそうそう。

(12) では、YM12が「ゼミ」を2回繰り返した後に、感動詞類「はいはい」とポーズを挿入している。その直後に、話者交替が起こり、YM13がYM12の発話を引き継ぐことで、両発話が組み合わせさり、「ゼミゼミあるんですよ」という一文が成立している。ここでは、話者交替前に反復・感動詞類・ポーズがこの順で現れた上で、引き継ぎが生起している。

以上のように、日本語の会話データにおける引き継ぎ場面では、反復が単独で現れる場合に加え、ポーズや感動詞類と共起する場合、さらには複数の挿入要素と共起する場合が観察された。反復が話者交替場所（話者交替前・話者交替後・話者交替前後）に現れることによって、引き継ぎが起こっている。

4.2. ベトナム語の引き継ぎにおける生起

前節では、日本語の引き継ぎにおいて、末尾音延長やポーズ、感動詞類などが話者交替と結びついて現れる様子を分析した。本節では、ベトナム語の会話データを用い、それらが引き継ぎにおいてどのように現れるのかを検討する。

4.2.1. ベトナム語における末尾音延長

日本語の会話データと同様に、ベトナム語の引き継ぎにおいても末尾音延長が観察される。本節ではベトナム語の会話データを用い、引き継ぎにおいて末尾音延長がどのように現れるのかを分析する。

[1] 話者交替場所に末尾音延長のみが現れる場合

ここでは、末尾音延長が単独で現れた場合に、どのように話者交替と結びついているのかをみる。(13)が挙げられる。

(13) 【大学での友人関係について】

47176VYM02 : Thế là thân rồi.

(それで親しいんだね。)

Đấy thế nên là kiểu các
 で それで は あのー (複数)
 bạn ý-y
 友人 その

47177VYM01 : cũng thoải mái.

も 気心を知っている

(で、それで、あのー、その友人たちも気心を知っている。)

(13) では、47176VYM02の「ý」の母音[i]が延長された直後に話者交替が起こり、VYM01がVYM02の発話を継続している。両者の発話を結合すると「Thế nên là các bạn cũng thoải mái (その友人たちは気心を知っている)」という文が完成する。このように、末尾音延長が発話を未完のまま保持し、相手による引き継ぎをしている。

以上、末尾音延長が単独で現れる場合、話者交替前のみでしか見られなかった。

[2] 話者交替場所に末尾音延長が一つの要素と共起する場合

次に、末尾音延長がポーズなど一つの要素と共起して現れる場合を検討する。まず、(14)を見てみよう。

(14) 【日本のホテル・旅館でのインターンシップ】

48016VYM03 : Thế có vẻ như không thuộc chuyên

ngành. đúng không ↑

(それで、専攻に関係なさそうだね。)

Chuyên ngành chọn của mày là-a (0.4)

専攻 選ぶ の 君 は

48017VYM01 : doanh nghiệp.

ビジネス

(君が選んだ専攻は、選んだのはビジネスです。)

(14) では、VYM03が「là」の母音[a]を延長した直後に0.4秒のポーズが挿入され、その後VYM01が「doanh nghiệp」と発話を引き継いでいる。全体として「君が選んだ専攻は、選んだのはビジネスです」という文が成立している。ここでは、末尾音延長とポーズが共起することで、引き継ぎが起こっている。

次に、末尾音延長が感動詞類と共起する会話データ(15)を分析する。

(15) 【日本語センターで働く夢について】

65167VYM19 : Tôi cũng thích ○○. (日本語センター名)

(私も○○が好きです。)

Sau này ra trường cũng

将来 出る 大学 も

muốn-n [ư]

～たい えー

65168VYM20 : làm trong đây.

働く で あそこ

(将来、卒業したら、あそこで働きたいと思っています。)

(15) では、VYM19の「muốn」の末尾音[n]が延長された直後に話者交替が起こり、VYM20が「làm trong đây」と発話を継続している。これにより「将来大学を卒業したら、あそこで働きたいと思っています」という一文が完成する。ここでも末尾音延長が発話の未完性を保持し、引き継ぎを起こしている。

次は、ポーズと共起する場合であるが、話者交替の後に起こる末尾音延長である。

(16) 【大学のテストの採点結果について】

72004VYF16 : ... Xong rồi điểm em được 11,5.

(...それで、私の点数は11.5点でした。)

72005VYF18 : 11,5 á ↑ 11,5 (0.5)

72006VYF16 : là-a 6,75 ý.

は 6,75 よ

(11,5は6,75に相当しているよ。)

(16) では、まず72005VYF18の「11,5 á ↑ 11,5」の

直後に、0.5秒のポーズを挟んで話者交替が起こり、72006VYF16が「là-a 6,75 ý」と発話を継続している。この際、「là」の母音[a]が延長されており、両者の発話をつなげると、「11,5 là 6,75 ý (11,5は6,75に相当しているよ)」という一文が成立している。ここでは(14)の会話データとは異なり、末尾音延長が話者交替の直後に現れている。すなわち、末尾音延長は話者交替前だけでなく、直後においても観察される。

[3] 話者交替場所に末尾音延長が複数の要素と共起する場合

ベトナム語の会話データには、末尾音延長が複数の要素と同時に現れるケースも観察される。(17)が挙げられる³⁾。

(17) 【オンライン販売について】

49255VOM02 : Thế bây giờ là có người đặt hàng là mình mình gọi ship à, hay là mình tự ship ↑

(注文があれば、配送依頼ですか、自己配送ですか。)

49256VYM04 : Tự ship thì nó
自分 配送 Sconj それ

sẽ-e (0.3) [a]

(未来) あ

49257VOM02 : ăn dày hơn.

食べる 厚く より

(自分で配送したら、(それは、それは一)より多くの有益を得る。)

(17) では、49256VYM04発話において「sẽ」の母音[e]が延長された直後に0.3秒のポーズおよび感動詞類「あ」が挿入されている。その後、話者交替が起こり、VOM02がVYM04の発話を引き継ぐことで、「Tự ship thì nó sẽ ăn dày hơn (自分で配送したら、より多くの有益を得る)」という文が形成されている。すなわち、末尾音延長とポーズに加え、感動詞類が連続して現れることによって、一文が構成されている。これは、話者交替前に、末尾延長がポーズと感動詞類といった複数要素と共起し、引き継ぎを起こすものである。

次に、末尾音延長と話者交替前後の挿入要素と共起する会話データ(18)を見てみよう。

(18) 【日本への留学経験と仕事の優先順位】

40061VYF10 : Vàng. Làm cái gì người ta cũng ưu tiên người đã từng đi Nhật về.

(そうです。何をすることも、日本に行った

ほとんどは分かり合えます)」という一文が成立している。ここでは、反復が話者交替前に現れ、感動詞類が話者交替後に生起することで引き継ぎが成立している。

次のデータも、反復がポーズと共に起る場合であるが、ここでは反復が話者交替の前後に同時に現れているものである。(22)が挙げられる。

(22) 【日本語コースの完了】

71218VYF16 : Nhưng mà mình chỉ cần học lên Cao cấp là mình xong đúng không ↑
(でも、上級日本語授業まで勉強すれば終わりよね↑日本語の勉強が終わるんだ。)

71219VYF17 : Cao cấp 2. (上級II。)
Học hết kỳ sau là (0.4)
学ぶ 終わる 学期 次 Sconj

71220VYF16 : là xong.
Sconj 完了
(次の学期が終わったら完了。)

(22) では、71219VYF17発話の「là」の後に、ポーズが生起し、話者交替が起こっている。その後、71220VYF16の発話冒頭で再び「là」が反復され、VYF17の発話を引き継ぐことによって、「Học hết kỳ sau là xong (次学期を修了したら終わり)」という一文を完結させている。ここでは、反復とポーズが組み合わせられ、かつ話者交替前後に現れることで、引き継ぎが生起している。

[3] 話者交替場所に反復が複数の要素と共に起る場合

次に、話者交替場所に、反復が感動詞類とポーズと共に起る会話データ(23)を見てみよう⁵⁾。

(23) 【ミスコンテストへの参加意向と最近の話題】

70359VOF06 : Mình cảm thấy mình chưa, chưa,
自分 感じる 自分 していない いない
chưa, chưa,
ていない いない

70360VYF16 : dạ vâng (0.3) chưa chạm đến cái
はいはい ていない 達するに(強調)
mức mà mình đi thi hoa hậu được
(hh)
レベルACP 自分 行く ミスコン できる
(自分がまだミスコンに出られるレベルに達していないと感じます。)

(23) では、VOF06が「chưa (まだ～していない)」を繰り返した後に話者交替が起こっている。その直後、

VYF16は感動詞類「dạ vâng (はいはい)」とポーズを発話し、「chưa」をもう一度繰り返している。その結果、「Mình cảm thấy mình chưa chạm đến cái mức mà mình đi thi hoa hậu được (自分がまだミスコンに出られるレベルに達していないと感じます)」という一文が成立している。ここでは、反復が話者交替前後の双方に現れ、感動詞類やポーズといった要素と共に起り引き継ぎを起している。

以上、反復に加え、感動詞類とポーズが組み合わせることによって発話が未完のまま保持され、次の話者による引き継ぎが起こっていることが観察された。

5. まとめ

前節では、日本語とベトナム語の自然会話における引き継ぎ現象を対象に、末尾音延長および反復という言語現象を分析した。それらの統語的な生起位置をパターンとして示すと、【表1】【表2】になる。

【表1】の記号FLが末尾音延長を、【表2】の記号RPが反復をそれぞれ表している。また、記号?は、そこに現れる現象が引き継ぎであるかどうか疑問が残ったり、確定できないものであったりすることを表す。また、日本語とベトナム語で同様の生起パターンが現れている場合は、同じ行に記している。

ここでは、各生起パターンから、それぞれのFL, RPの統語的位置を確定していく。まず、【表1】から見ていく。(3)ではFLが話者交替前に単独で現れているため、統語的位置が決められない。(4)を見ると、FLはp(ポーズ)の直前にあるため、この順で統語的位置が決まる。次に(7)を見ると、FL-p-iという統語的位置が分かる(記号iは感動詞類を表す)。他の会話データも含めて見ると、少なくとも(24)のような統語的位置が見出される。

(24) FL p i |

ここで考えられることは、NGUYEN THI HA (2025)で主張した、話者交替場所を中心とした挿入要素の対称性である。そこでは、統語的位置に関して(25)が提示されている(記号「感」は感動詞類を、記号pはポーズを、記号(hh)は笑いをそれぞれ表す。またインデックス番号は同じものを区別するために用いる)。

(25) ... 感₁ p₁ 感₂ (hh)₁ | (hh)₂ 感₃ p₂ 感₄ ...

(23), (24)を比較すると、FLは感₁と同じ統語的位置にあることが分かる。もちろん、同じ統語的位置にあるからと言って、FLが感₁と同じ機能を持つとは言えない

【表1】末尾音延長の生起パターン

日本語			ベトナム語		
会話データ 番号	生起パターン		会話データ 番号	生起パターン	
(3)	FL …	FL=名詞 (従属節)	(13)	FL …	FL=y-y (その)
(4)	FL p …	FL=〜と (従属節)	(14)	FL p …	FL=là-a (〜は)
(7)	FL p i …	FL=名詞 (ニ格) i=なんだろう	(17)	FL p i …	FL=sê-e<未来:テンス> i=a (あ)
			(15)	FL i …	FL=muốn-n (〜たい) i=ư (うー)
(5)	FL (hh) …	FL=副詞			
(6)	FL i …	FL=名詞 (ニ格) i=あー			
(8)?	FL p i …	FL=〜は i=えっ			
			(18)?	FL p i p …	FL=thì-i (Sconj.) i=vâng (はい)
			(16)	… p FL …	FL=là-a (〜は)

【表2】反復の生起パターン

日本語			ベトナム語		
会話データ 番号	生起パターン		会話データ 番号	生起パターン	
			(19)	RP RP RP …	RP=thì (Sconj.)
			(21)?	RP RP RP RP RP RP i …	RP=là (〜は) i=vâng (はい)
(10)?	RP RPで p …	RP=名詞	(20)	RP RP p …	RP=ở (で)
(12)?	RP RP i p …	RP=名詞 (ガ格?) i=はいはい			
(11)?	… p RP RP RP	RP=ない			
(9)	RP RP …	RP=名詞 (ガ格)			
			(22)	RP p RP …	RP=là (Sconj.)
			(23)?	RP RP RP RP i p RP …	RP=chưa (〜ていない) i=dạ vâng (はいはい)

が、その可能性は十分あると考えられる。このように考えると、(24) のi (感動詞類) は (25) の感₂に相当することになる。以上のような考え方は、NGUYEN THI HA (2025: 250-253) とも整合するものである。例えば、(7) のiは「なんだろう」という疑問詞系統の挿入要素であるが、NGUYEN THI HA (2025: 250-253) では感₁、感₂、感₃のいずれにも現れている。また、(17) のa (あ) は感₁、感₂のいずれにも現れている。以上より、(7) の場合でも、(17) の場合でも、FLは感₁に、iは感₂に相当すると考えることができる。

次に、【表2】について分析する。(10)、(12)、(20)、(22) では、RPはpの前に位置するので、RPは感₁に相当する可能性が高い。これはFLの場合と同じである。ただ、(12) ではRPとpの間にiが現れている。このiも感₁

ということになる。同じ感₁のところに2つの挿入要素が共起しているのである。このことから考えると、RPとiの間にも統語的順序があるのかもしれない。また、(23) では、RPが話者交替後に現れているが、i-p-RPと並んでいることから考えると、RPは感₁に相当する可能性が高い。この反復現象については、(9)、(22)、(23) のような両話者にまたがるものもあり、多種多様である。引き継ぎとは考えにくいものあり、そこには応答詞が関係していることが多い。さらなる検討が必要である。

6. おわりに

本稿では、日本語とベトナム語の自然会話における引き継ぎ現象において、末尾音延長と反復が生起する統語的位置について分析した。その結果、次のようなことが

判明した。

- (26) a. 引き継ぎにおいては、ポーズのような挿入要素だけではなく、末尾音延長や反復のような言語現象も現れる。
- b. このような言語現象も生起において対称性を示す。
- c. 話者交替前の末尾音延長は、感₁に相当する可能性が高い。
- d. 話者交替前の反復は感₁に、話者交替後の反復は感₂にそれぞれ相当する可能性が高い。

ただし、引き継ぎにおいて末尾音延長や反復が現れる会話データは圧倒的に少ないため、明確な結論は出ていない。今後のさらなる考察が必要である。

謝辞

本研究における会話調査の実施は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）次世代研究者挑戦的研究プログラム（JPMJSP2111）の支援を受けて行われたものである。ここに記して深く感謝の意を表す。また、調査に際して多方面からご協力とご支援を賜ったことに心より御礼申し上げる。なお、本調査は「国立大学法人山口大学における人を対象とする一般的研究に関する承認」（管理番号：2022-014-01）を得て実施された。

注

- 1) ポーズなど、発話の一時的な揺らぎは「非流暢性」と呼ばれる（伝・渡辺 2009、林 2024など）。
- 2) 別の考え方として、「09004YF7は疑問文なので、引き継ぎではなく、09003YF05は同じ話者による09005YF05につながっている、すなわち単なる話者交替である」という分析ができる。(10), (11)にも同様の問題が残る。「応答」の場合は再検討が必要であろう。
- 3) ベトナム語の接続詞は独立接続詞と従属接続詞に分かれ、後者は呼応構文と結び語（thì, là, nên）を伴うため、本稿では「従属接続詞」（Sconj.）と呼ぶ。
- 4) 従属接続詞thìがあること、及び応答詞vângがあることから、複文を一文と見なすかどうかについては検討の余地がある。
- 5) ベトナム語名詞句には、主要名詞と連体節をつなぐmàなどの「連体接続助詞（ACP）」が現れる。

参考文献

常艶麗（2022）「日本語自然会話における「話者間反復」に関する研究」、山口大学大学院東アジア研究科、博

士論文

- 伝康晴・渡辺美知子（2009）「音声コミュニケーションにおける非流暢性の機能」『音声研究』第13巻第1号、pp.53-64
- 林良子（2024）「多様な話者の非流暢性を連続体として捉える試み」『流暢性と非流暢性』ひつじ書房、p.455-465
- NGUYEN THI HA（2025）「日本語・ベトナム語の自然会話における「引き継ぎ」に関する研究」、山口大学大学院東アジア研究科、博士論文
- Sacks, H. Schegloff, E. A. & Jefferson, G（1974）. A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50(4), pp.696-735
- （西阪仰訳（2010）「会話のための順番交替の組織—最も単純な体系的記述」『会話分析基本論集 順番交替と修復の組織』世界思想社、pp.5-153）